## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年7月3日

#### 【事業所概要(事業所記入)】

<b>L</b> 1 /10//1 1902 ( 1 /10//1	1 1 1/1/1 1/1/2 (1 1 1/1/1 1/1 1/1 1/1 1/1 1/1 1/1 1/1		
事業所番号	第4695200016号		
法 人 名	医療法人 玉昌会		
事業所名	しあわせの杜・ケアレジデンス 木もれ日		
所 在 地	鹿児島県姶良市加治木町反土2156—1 (電 話) 0995—62—5915		
自己評価作成日	平成24年4月30日		

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	-----------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年5月22日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちの法人には、加治木温泉病院、髙田病院のリハビリと人工透析を中心とした療養型の病院があります。それぞれの病院は、患者様の尊厳や権利を大切にし、また地域および医療・福祉施設との連携を図り、入院から在宅への一貫した医療・介護を提供しております

病院以外には法人の在宅サービス事業所として、当グループホーム(認知症対応型共同生活介護)、認知症対応型通所介護、小規模多機能ホーム、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーションなど様々な介護サービス事業所があり、医療と介護のシームレスな関係を構築しております。

当事業所では、利用者様一人一人にあったケアプランを作成し、個別の対応に努めております。また介護支援専門員の資格者も増え、職員それぞれが自己研鑽にも努めております。管理者が作業療法士であり、利用者様一人一人の機能を評価し、自立した生活が送れるようアドバイスを行っております。

医療面に関しては、加治木温泉病院と24時間体制で連携をとっているため、利用者様が安心して暮らすことができ、ご家族様も安心してお預けできる環境となっております。 同敷地にグループホーム、小規模多機能ホーム、住宅型有料老人ホーム、その他介護サービス事業所があることで、各サービスについて見学・相談しやすい環境になっております。

地域のボランティアの方々との交流も盛んになり、利用者様皆さまのOQL向上に繋がって おります。法人として地域に根ざした病院・事業所になるよう日々取り組んでおります。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、九州自動車道の近くにあり、各種医療機関が数多くある地域に立地している。またホーム敷地の隣りは中学校のグラウンドで時として、子供達の元気な声が聞こえ利用者の精神的刺激・喜びになっている。中学校との境に、せんだんの大木が並び葉のそよぐ音に、また管理の行き届いた小菜園に木漏れ日が揺らぎ、心休まるような環境にある。また同一法人が運営する、他の2施設(認知症対応型通所介護、小規模多機能ホーム)と、広いウッドデッキで繋がり、施設同士の交流がなされ、開放感を楽しめる。管理者や職員の自己啓発意欲が高く、資格取得に向けて法人全体でバックアップしているため、有資格者が多い。法人内に職員専用託児所を設け、育児中の職員が安心して仕事に専念でき、また突発的な育児休暇などにも対応していることから、働きやすい環境が構築なされている。同法人の医療機関との連携体制も非常によく取れており、利用者や家族により安心感を与えている。法人内研修も多く、研修内容を共有化するなど様々な工夫がみられ、利用者本位の介護が徹底され明るく和やかなグループホームである。

自	外		自己評価	外部	評価
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
	Ι. 3	里念に基づく運営			
1		<ul><li>○理念の共有と実践</li><li>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている</li></ul>	法人理念とは別に、地域密着型サービス事業所として独自の理念を掲げている。	地域密着型サービス事業所として木 もれ日独自の理念を掲げている。 日々の介護の場面で振り返り、実践 されている。	
2		<ul><li>○事業所と地域とのつきあい</li><li>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</li></ul>	毎月隣接の地域交流センターにボランティアの方が来られ、利用者はそのイベントに参加し交流を図っている。	文化祭に近隣の方々を招待して交流	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議や家族会などを通じ認知症の方の理解や支援について話し合う機会を設けている。職員に対しても認知症についての勉強会等も実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービス の実際、評価への取り組み状況等につい て報告や話し合いを行い、そこでの意見 をサービス向上に活かしている	定期的に開催できており、事業所の 運営状況や行事等の報告を行ってい る。	地域住民代表、家族代表、行政などの参加を得て、2ヵ月に1回開催している。近況報告・ヒヤリハット報告・行事予定などの説明をしている。家族や地域住民の意見を受けサービスにフィードバックする仕組みがある。またこの会議を通して、当事業所への理解も深まり、地域活動にも生かされている。	

自	外		自己評価	外部	評価
三評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
5	4		事故報告や認定手続きなど市町村担 当者と連絡を取っている。運営推進 会議でも市職員の方に状況等の説明 を行っている。	事故報告や認定手続きの際、また運営推進会議で現状の説明が行われ連携構築できている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルがあり、身体拘束ゼロを目標に努めている。身体拘束はなし。また身体拘束に関する研修会に参加し知識向上に努めている。	研修を積極的に行い、DVDなども駆使し、全職員への研修報告・共有化を図り、理解を深めている。繰り返し朝礼で確認することにより、言葉の拘束さえもがないよう徹底した努力がみられる。	
7		や事業所内での虐待が見過ごされること	高齢者虐待防止関連の研修会に参加。同法人からの情報やメディアの情報等から知り得た事例を、職員全員への注意喚起や指導等行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 それらを活用できるよう支援している	倫理、擁護権利に関する研修会に参加し、職員全員に周知させ利用者様の対応について勉強する機会がある。		

自	外	項目	自己評価	外部	評価
自己評価	部評価		実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、 利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十 分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や同意書をいただく際は十分に 時間をかけて説明を行い、利用者や 家族が理解・納得した上で行ってい る。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者 や職員並びに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	家族会を設けご家族からの意見を業 務改善に活かしている。またアン ケートによる満足度調査を行ってい る。アンケートを集計・分析し、結 果はそれぞれの家族に書面で配布し ている。	面会時や家族会時に意見や要望を聞き出すようにしている。出された要望などは、改善に努め家族に報告している。アンケート調査も実施し、分析し家族へ配布している。気兼ねない意見などの収集のために、「ご意見箱」を同法人医療機関外来窓口付近に設置することも検討している。	より深い家族の要望、意見を引き出すための工夫を具体的に検討し、実践に向けての取り組みに期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員 の意見や提案を聞く機会を設け、反映さ せている	毎朝のミーティングで職員から意見 を聞く機会を設けている。法人内で も毎月1回、在宅事業所の管理者が 集り、各事業所の報告を行いながら 運営に関する意見や提案を行う機会 が設けられている。	毎朝のミーティングで活発に意見交換している。情報の共有も徹底している。運営者自ら事業所を訪れ、職員と接し意見交換する機会も多く作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や 実績、勤務状況を把握し、給与水準、労 働時間、やりがいなど、各自が向上心を 持って働けるよう職場環境・条件の整備 に努めている	毎年、年2回人事考課を実施している。職員の個別面談においてそれぞれの個人目標や計画などを聞く機会を持ち、それぞれの職員の人材育成やスキルアップに繋げていけるよう努めている。		

自	外		自己評価	外部	評価
己評価	外部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりの ケアの実際と力量を把握し、法人内外の 研修を受ける機会の確保や、働きながら トレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加。研修会に参加が難しい職員にも勉強する機会がもてるように、研修DVD鑑賞や資料を見て研修報告書を書いてもらうシステムを作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	始良・伊佐グループホーム協議会に入っており、ブロック研修会や同業者との交流に参加している。今年度は管理者が姶良ブロック長となり同業者への研修参加等への働きかけを行っていく。		

自	外		自己評価	外部	評価
三評価	外部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
:	Ⅱ.安	心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本 人が困っていること、不安なこと、要望 等に耳を傾けながら、本人の安心を確保 するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前には必ず在宅や 病院等に訪問し、本人の安心を確保 するための関係づくりとアセスメン トを実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家 族等が困っていること、不安なこと、要 望等に耳を傾けながら、関係づくりに努 めている	サービス利用開始前に、管理者と計 画作成担当者が家族との初期面談に おいて要望や不安なことを確認し、 安心して利用できるような関係づく りに努めている。		
17			計画作成担当者が初期のアセスメントにおいて必要としている支援を見極め、本人と家族のニーズに応じたプランを作成し、個別のサービス提供を行っている。		
18		<ul><li>○本人と共に過ごし支え合う関係</li><li>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</li></ul>	利用者それぞれが出来る役割を見つけ、職員とともに生活の役割を一緒になって楽しみながら行っている。 人生の先輩としての尊厳を大切にし、職員が教えてもらう機会もある。		

自	外		自己評価	外部	評価
己評価	部評価	項  目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
19			家族には随時連絡や相談しながら本人を一緒に支えていく機会をもっている。月に1回、事業所独自の通信や最近の様子をまとめた文書を作成し家族に配布している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染み の人や場所との関係が途切れないよう、 支援に努めている	家族の面会はもちろん、親戚や馴染 みの人と会える機会の確保に努めて いる。	利用者は、系列の施設からの入居も 多く、合同のイベントで会うのを楽 しみにしている。家族との協力関係 も意識し、可能な限りなじみの人や 場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひと りが孤立せずに利用者同士が関わり合 い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、関係性 悪化の際は必要に応じて席も調整し 良好な関係が保てるよう努めてい る。またリビングでの団らんや集団 体操、レクリエーション等で関わり 合いが出来るよう支援を行ってい る。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、 これまでの関係性を大切にしながら、必 要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	退居となった際も病院へのお見舞い や亡くなられた際にはお通夜に参加 するなど本人・家族に対しての関係 性を大切にしている。		

自	外		自己評価	外部	評価			
自己評価	外部評価	照 平 西	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容			
1	Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、 意向の把握に努めている。困難な場合 は、本人本位に検討している	日頃の関わりから希望や意向などを 聞き、それらの情報については朝の ミーティングで情報を共有してい る。	入居時に家族から聞き取った内容 や、利用者の日頃の会話や表情で把 握するよう努めている。常に微笑み と謙虚な気持ちで目線を合わせ、本 人本意に検討している。				
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし 方、生活環境、これまでのサービス利用 の経過等の把握に努めている	本人・家族からこれまでの暮らしの状況を聞き、馴染みの生活が継続できるよう 努めている。情報の中にはセンター方式 (家族版)を使用し、家族の思い、本人 の生活史、元気だった頃の暮らし方など の情報把握に努めている。					
25			日々の暮らしを個別記録に残し、そ の中で心身の状態や個別の能力につ いて記載している。					
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画とモニタリングを行う際は ケア会議を開催し、現状の課題や今 後の目標について話し合いを行って いる。また家族や医師からの情報も 踏まえて検討を行っている。	ケース会議やモニタリングを定期的 に行い身体及び生活状況を反映した 介護計画をチームで作成している。 菜園や花壇の管理など日々の生活の 目標を作る事で落ち着いた暮らしが できている。				

自	外		自己評価	外部	評価
三評価	外部評価	項  目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきや工夫について は個別記録に記入し、毎朝のミー ティングにおいてもそれらの情報に ついて報告を行い情報共有の強化に 努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに 捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の思いや変化にいち早く対応 し、家族からのニーズにも対応でき るよう日々支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮 しながら安全で豊かな暮らしを楽しむこ とができるよう支援している	毎月地域のボランティアの方々が来 所。イベントに参加し、日々の生活 と違う楽しみを持つ機会がある。		
30		○かかりつけ医の受診支援     受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人・家族の意向に沿った 医師・病院を選んでいる。当事業所 は医療連携体制をとっており、24時 間いつでも受診できる体制となって いる。また定期受診に関しては職員 が受診支援を行っている。	の受診の支援をしている。訪問診療  による定期受診も支援し、その都度	

自	外		自己評価	外部	評価
三評価	外部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとら えた情報や気づきを、職場内の看護職員 や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の 利用者が適切な受診や看護を受けられる ように支援している	医療連携の母体の病院から週に1回 看護師が訪問し、利用者の健康状態 を管理している。また事業所内にも 看護師がおり、病院の看護師に対し て各利用者の身体の状況や相談等を 行い医療面に対しての連携強化を 図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は管理者または計画作成担当者が訪問し、医師や看護師に情報提供を行い、情報交換・相談に努めている。医師に対して入院の期間や治療方針等の情報をいただき早期に退院が可能かどうかの判断を聞いている。早期退院が可能であれば入院中に訪問し、現状を聞きながら再入所へと繋げられるよう病院関係者との連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と 支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し 合いを行い、事業所でできることを十分 に説明しながら方針を共有し、地域の関 係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会で看取りについての話し合い を開催。事業所で出来る事を説明 し、看取りに入る際の手順や看取り の現状等の報告を行った。今後もこ の件については家族ごと個別に話し 合う機会を設け検討していく必要が ある。	を重ね、支援に向けての努力がみら	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、 すべての職員は応急手当や初期対応の訓 練を定期的に行い、実践力を身に付けて いる	急変や事故発生においての研修等に 参加している。また消防署が行って いる救命救急講習会にも全職員が受 講できるよう計画を作っている。		

É	1 外	項 目	自己評価	外部評価		
言語	外部評価		実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容	
3		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を全職 員が身につけるとともに、地域との協力 体制を築いている	消防職員の立ち会いのもと訓練を実	字際(元本則)元訓(結) キェルオモフ	地域住民、中学校の協力体制を構築し、人的な地域資源を生かした防災訓練の実施を期待したい。	

自	外	項 目	自己評価	外部評価		
己評価	外部評価		実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容	
Γ	<b>٧</b>	その人らしい暮らしを続けるための日々の	支援			
36	14	<ul><li>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</li><li>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</li></ul>	法人の行動指針「低・賞・感・微」低: すべてに謙虚な気持ちで接する。賞:お 互いを思いやり敬意を払う 感:すべてに感謝する 微:微笑を添えて態度で示す 職員一同利用者の尊厳を大切にして行動 するよう努めている。	日々胸に刻み介護している。とくに  言葉かけはひとり一人の尊厳を大切		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表 したり、自己決定できるように働きかけ ている	日々の暮らしの中で会話をする時間 を出来るだけ多くとるようにし、本 人の思いや希望を聞き、意向に沿え るよう努めている。			
38		<ul><li>○日々のその人らしい暮らし</li><li>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</li></ul>	職員のペースではなく利用者一人一人のペースを大切にし、共通のサービス (入浴などの日常生活の援助)においては必ず本人の意向を聞いたうえで行うよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれが できるよう支援している	日々の暮らしの中で利用者ごとの心 身の能力を見極め、おしゃれをする 機会や衣服を選んでもらうなどの機 会を作っている。			
40	15	<ul><li>○食事を楽しむことのできる支援</li><li>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</li></ul>	食事の味見や盛り付け、片付けなどを利用者一人一人の能力にあったことを見極めながら生活の役割のひとつとして実施してもらっている。	しらえや、茶碗拭きなど個々の力量		

自	外	項目	自己評価	外部	評価
己評価	部評価		実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通じて水分・食事量をチェックし、摂取できているか把握している。状況によって主治医に報告し、 点滴の指示や家族に補助食品購入の 承諾をもらうなど随時対応を行って いる。		
42		<ul><li>○口腔内の清潔保持</li><li>口の中の臭いや汚れが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている</li></ul>	全員毎食後口腔ケアを行っている。職員 は口腔状態を把握し、歯科受診が必要な 際は家族に報告し早期対応に努めてい る。入れ歯の方は洗浄剤で毎日洗浄を 行っている。舌苔のある方は舌ブラシで ケアを行っており清潔保持に努めてい る。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	毎日排泄チェックを行っている。一人一人の排泄パターンを把握し、声かけや誘導で利用者全員がトイレで排泄ができるよう支援を行っている。また主治医には排尿の状況を定期的に報告し、尿に異常がある時は随時指示をもらって早期対応に努めている。	プェック表を作成して個々の存在で パターンを把握し、トイレでの支援 を行っている。医者の指示による水 分摂取量にも個別に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行っている。食事・水分摂取状況とも照らし合わせながら、主治医の指示の下、緩下剤を使用し排便のコントロールを行っている。また腹部のマッサージを行い排便を促している。 運動に関しては、個別のプログラムや集団体操など毎日実施している。		

自	部評	項目	自己評価	外部	評価
己評価			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、 個々に応じた入浴の支援している	考えながら行っている。また声かけ	利用者の体調に合わせ、時間や順番など個々応じた入浴の支援を行っている。最低週3回の入浴で、清潔保持に努め、入浴後の保湿剤などによるケアにも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動により覚醒を 促し昼夜逆転しないよう支援を行っ ている。しかしその日の睡眠不足等 により気分がすぐれないときは休息 がとれるよう支援している。		
47		副作用、用法や用量について理解してお	服薬情報は個別記録・服薬台帳それ ぞれにつづっており、いつでも見れ るようにしてある。作用・副作用・ 用量も記載されていている。頓服に 関しては受診記録簿に記載し、申し 送りで情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活暦や力を活か した役割、嗜好品、楽しみごと、気分転 換等の支援をしている	センター方式(家族版)を使用し、 本人の生活史、元気だった頃の暮ら し方などの情報を把握し、日々の生 活の中で、役割や楽しみ、気分転換 できるよう支援している。		
49		○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、 戸外に出かけられるように支援に努めて いる。また、普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かけられるよう に支援している	そった支援を行っている。また家族	て帰宅や買い物など、家族の協力の	

自	外	外 部 項 目 価	自己評価	外部	評価
己評価	外部評価		実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切 さを理解しており、一人ひとりの希望や 力に応じて、お金を所持したり使えるよ うに支援している	ヤクルト販売員の来所時や外出の 際、事業所で預かっているお金を本 人に渡し使いたいときに使えるよう 支援を行っている。また買い物に 行った際も同様。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人が電話をしたいというときは職 員が相手先に電話をかけ支援を行っ ている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者 にとって不快や混乱を招くような刺激 (音、光、色、広さ、湿度など)がない ように配慮し、生活感や季節感を取り入 れて、居心地よく過ごせるような工夫を している	ホーム内外の設備に関しては過ごし やすいよう配慮されている。外には 落葉樹もあり季節感を味わえる環境 になっている。3施設がウッドデッ キで繋がっており、すぐに中庭に出 れるような作りとなっている。	対面式台所、食堂、居間と連続性がある。開口部がり、明るく開か感がり、明るく開放感がある。廊下やおりに温度計湿度計湿度計るの空間への配慮、とうでの点をででいる。利用でいる。そ至ではいる。程やかな生活空間を流れている。全室を毎日掃除している。といるとは、次亜塩素酸水をスプレーし滅菌している。	
53		<ul><li>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</li><li>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</li></ul>	利用者の座る位置に関しては、利用者同士や利用者とスタッフで話し合い、みんなが納得いく配置になっている。一人一人が好きな時間に好きな場所でくつろげるよう、共用空間の様々な場所に椅子を用意してある。		

自	外		自己評価	外部	評価
己評価	外部評価	項 目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	スや馴染みの物を持っていただける よう家族に説明を行っている。本人 が着慣れた衣類や馴染みの物を持参 して頂いている。	タンスや籐椅子など使い慣れたものが持ち込まれている。写真や飼い猫のオリジナルのぬいぐるみなど本人が大切にしていたものが持ち込まれ居心地よく過ごせるよう配慮されている。敷布団、シーツなどは定期的に交換している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はすべてバリアフリーと なっている。廊下は車椅子の方同士 がぶつかることなく行き来できる幅 となている。すべての個室には電動 ベッドが備え付けであり、利用者ご とに高さ調整し個別にあったものと なっている。		

### Ⅴ アウトカム項目

			1 ほぼ全ての利用者の
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	0	2 利用者の2/3くらいの
30			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
		0	1毎日ある
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。		2数日に1回程度ある
01	(参考項目:18,38)		3 たまにある
			4 ほとんどない
	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1 ほぼ全ての利用者が
58		0	2 利用者の2/3くらいが
96			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目:36,37)		1 ほぼ全ての利用者が
50		0	2 利用者の2/3くらいが
199			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
			1 ほぼ全ての利用者が
60	0 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		2 利用者の2/3くらいが
00		0	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

			1 ほぼ全ての利用者が
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		2 利用者の2/3くらいが
61		0	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
			1 ほぼ全ての利用者が
69	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して 暮らせている。	0	2 利用者の2/3くらいが
62	(参考項目: 28)		3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく 聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	0	1 ほぼ全ての家族と
62			2 家族の2/3くらいと
03			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:9,10,19)		1 ほぼ毎日のように
64			2 数日に1回程度ある
04		0	3 たまに
			4 ほとんどない
			1 大いに増えている
   	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡が りや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	0	2 少しずつ増えている
00			3 あまり増えていない
			4 全くいない

	職員は,活き活きと働けている。 (参考項目:11,12)		1 ほぼ全ての職員が
66		0	2 職員の2/3くらいが
00			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
			1 ほぼ全ての利用者が
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	0	2 利用者の2/3くらいが
07	柳貝がり兄く,利用有はサービへにわわびは傾尾していると心り。		3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
			1 ほぼ全ての家族等が
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると	0	2 家族等の2/3くらいが
00	思う。		3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない